

# 合併70周年に向けて



映画館【金龍座】



唐古・鍵遺跡史跡公園



ともば！たわらもと

現在の田原本町は、昭和31年9月30日に多村・川東村・平野村・都村・旧田原本町の5町村が合併したことで誕生しました。合併70周年を迎える今年を、住民の皆さんの田原本町への愛着を深める機会としていただけるよう、6月号から12月号にかけて、田原本町に縁のあるさまざまな人にお話を伺い、町の魅力を語っていただきます。

連続特集の第一回目となる今回は、田原本町埋蔵文化財センター長の藤田三郎さん。田原本で生まれ育ち、40年以上唐古・鍵遺跡に携わり、遺跡を見つめてきた藤田さんに、その想いを伺いました。



田原本町埋蔵文化財センター長 藤田 三郎さん

## 奇跡を守り、未来へつなぐ

かつては水田が広がる田園風景だった場所が、今は賑わいのある公園へ。「その変化には驚かされます」と藤田さんは語ります。驚異的なのは、国道24号が遺跡を縦断しているにもかかわらず、長年この場所が壊されずに残ってきたこと。「地元の方々が開発をせず、大切に耕作し続けてくださったからこそ。この『奇跡』こそが、今の私たちの財産です」。

**「弥生の時代を読み解く『鍵』**

「現代の東京や大阪で最先端がわかるように、ここを掘れば弥生時代が見えてくる」。藤田さんが遺跡に夢中

## 時を超えて、弥生の風が吹くまち

### 一 田原本で、唐古・鍵遺跡と歩んだ40年 一

「この遺跡には価値がある」と信じ、理解ある仲間と共に一歩ずつ今の地位を築いてきました。「遺跡に夢中すぎて、私にとって考古学は24時間体制なんです」と屈託なく笑うそのまなざしは真剣そのもの。かつて「発見の感動」を追い求めた青年は、今や「この財産をどう未来へつなげるか」という考えを軸に活動されています。

出前授業を機に唐古・鍵考古学ミュージアムに興味を持った中高生達が活動する「ミュージアム部」など、藤田さんの語る『郷土愛』は、次の世代へと引き継がれています。



## これからの田原本へ

1992年に出土した「楼閣が描かれた絵画土器片」との出会いが特別でした。わずか10cm程度の破片が、楼閣の復元や国史跡指定、今の遺跡公園整備へとつながる流れを作ったのです。「私の中では、あの復元楼閣こそが田原本のシンボルなんです」と藤田さんは笑う。

**「24時間考古学」という生きがい**

かつては今ほど文化財保護への理解が得られない時代もありました。それでも「この遺跡には価値がある」と信じ、理解ある仲間と共に一歩ずつ今の地位を築いてきました。「遺跡に夢中すぎて、私にとって考古学は24時間体制なんです」と屈託なく笑うそのまなざしは真剣そのもの。かつて「発見の感動」を追い求めた青年は、今や「この財産をどう未来へつなげるか」という考えを軸に活動されています。

中世から続く農村風景が残り、暮らすには「ちょうど良い」豊かさがある田原本。「唐古・鍵遺跡を全国トップクラスの価値ある宝物として活かしていきたい」。そう語る藤田さんは、未来へと目を向けています。また、「小学校への出前授業などで学んだ子ども達が、将来、故郷を誇らしく誰かに紹介できるようにしてほしい。そんな『郷土愛』を育てることが、私の夢であり『弥生ブランド』を作る第一歩です。そして、田原本が、皆さんにとって生きがいのある場所であってほしい。そのために、これからコツコツとやっていきたいですね」と熱い想いを語っていただきました。